

～願いを込めて～ きらめく吉祥文様



糊で描いた文様にラメで色付け

女性セミナーの今年度最終回では、縁起の良いアート作品「ラメアート」づくりに挑戦しました。

講師は利府町からアートインストラクターの菅野みき子先生にお越しいただきました。

はじめに、今回のテーマである「吉祥文様」について先生から説明

がありました。吉祥文様とは、小槌や梅、市松模様など、古くから縁起が良いとされてきた模様や柄のことで、それぞれに願いが込められています。

たとえば「市松」は、重ねた四角形が「途切れることなく続く」ことから、発展や永遠を象徴する文様とされて

います。江戸時代に、人気歌舞伎役者・佐野川市松が舞台衣装に用いたことでその名が付き、広く知られるようになったそうです。

また、「小槌」は「望みが叶う」、「菊」は「延命長寿、無病息災」など、それぞれの意味も紹介されました。

制作は、手のひらサイズの画用紙に糊で吉祥文様を描くところから始まりました。

そこに「大切な人を思い浮かべながら」という先生からのアドバイスを心に留め、カラフルなラメで丁寧に色付けをして完成です。

参加者の皆さんは次第にコツをつかみ、配色やデザインを工夫しながら制作を楽しんでいました。

それぞれの思いが込められた作品が完成し、日本の伝統文化に親しむひとときとなりました。



完成したラメアート

公民館だより

TOYOSATO COMMUNITY

No. 154

2月号

令和8年2月1日発行

—世界にひとつのお菓子の家—

MY SWEET HOME



完成したお菓子の家と一緒に全員で



サブレの壁にカラフルなデコレーション



家の形に組み立てたら完成!

多くの人が一度は夢に見たことがある、お菓子で作られた甘いおうち。

今回のお菓子づくり教室はその夢を形にする「お菓子の家づくり」を令和7年12月14日に開催しました。講師に「お菓子工房すいーつ畑・ふしみ(美里町)」の勝又千枝先生をお迎えし、30人の小学生が参加しました。

まず、5色のアイシングやハート形の砂糖菓子、アラザンなど、先生が用意してくださった豊富な材料を使い、サブレで作られた壁と屋根に思い思いにデコレーションを楽しみました。

組み立て作業は、接着用の砂糖が固まるまで少しコツが必要で難しそうな場面

もありましたが、先生と高校生ジュニアリーダーのサポートを受けながら、全員が無事にお菓子の家を完成させることができました。

子どもたちならではの自由で豊かな発想により、花や星などが装飾されたカラフルで個性あふれる、世界でひとつの素敵なお菓子の家となりました。

クリスマス間近ということもあり、サンタクロース型のメレンゲドールと一緒に飾り付けをし、自宅でも楽しんでもらいました。

参加した子どもたちからは、「食べるのがもったいない」「アイシングをしてみたかったのがうれしい」「またやってみよう」といった感想が聞かれました。

今年の目標は決まりましたか?

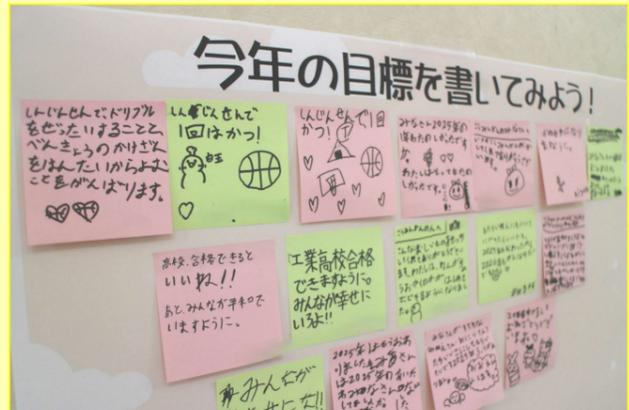
新年を迎え、公民館を訪れた子どもたちが、ロビーの貼り紙に目標を書いてくれました。

スポーツへの挑戦や受験に向けた決意、周囲の人々の幸せを願う言葉など、さまざまな思いが並

びました。

「公民館の皆さん、ありがとう」という嬉しい声もあり、管理者として大きな励みとなりました。

今年も公民館で楽しい思い出がたくさん生まれますように。



2月の行事予定

日時	行事内容	場所
8日(日) 10時00分	囲碁将棋サークル⑩(対局)	公民館 研修室
21日(土) 10時00分	北上川ってどんな川?(研修会)	公民館 中ホール
調整中	豊里小5年生サケ放流体験	水辺の公園

Thank you!

参加者のみなさんから
ご自宅で飾り付けをした様子を
写真で送っていただきました!



公民館玄関に飾られたしめ飾り



老人クラブ会長の及川英一さん



お正月のしめ飾りを
いただきました

ありがとうございます

制作の様子を
動画で御覧
いただけます



今年も二ツ屋地区の老人クラブの皆さまから、心のこもった手作りのしめ飾りをいただきました。華やかで明るいしめ飾りが、公民館の玄関をばつと照らし、新年を迎える喜びを感じさせてくれます。おかげさまで、清々しい気持ちで新しい年を迎えることができました。誠にありがとうございました。地域の皆さまの温かなお心遣いに感謝しつつ、本年も公民館が人と人をつなぐ場となるよう努めます。



共に歩んだ時間



12年間にわたり、「いけばな教室」の講師としてご指導くださった高橋由紀子先生が、この冬をもって教室を卒業されることになりました。12月25日に最終回を迎えた教室の様子をお伝えします。



講座の様子

最終回のテーマは「お正月の花をいけましょう」。若松や千両、金銀柳などの花材を用いて作品を生けました。近年は玄関や居間など飾る場所に合わせて小ぶりに仕上げるスタイルも増えており、完成後の空間をイメージしながら生けることが大切だと教わりました。

また先生からは、「いけばなは自分のため、そして誰かのために生けるもの。人の心を励まし、心和む空間をつくり出す力がある」とのお話もありました。参加者同士でアドバイスを交わし合う姿も見られ、終始活発で和気あいあいとした講座となりました。

景色を表現するいけばな

由紀子先生は、いけばなを学ぶため、池坊の本場である京都に通い、研鑽を重ねてこられました。卒業式や参観日など、学校の節目となる行事を花で温かく迎えたいという思いが、その原点です。池坊は、草花によって景色を表し、自然の移ろいを花に映し出す

流派。花は咲く瞬間だけでなく、蕾や枯れゆく姿にも美が宿ること、草花の一生を慈しむ心を先生は大切に伝えてくださいました。大きな窓から四季を望める平筒沼学習館を会場に、季節の花で景色を表現してきました。「いけばな」の表記も、柔らかさを大切に平仮名を用いています。



高橋由紀子先生

身近な花に目を向けて

「参加者の皆さんは生けることを心から楽しんでくれた」と由紀子先生は笑顔で話します。皆さんからも「先生は自由に生けさせてくれるし、大切なことも一人ひとりにきちんと教えてくださった」「まだまだ続けてほしい。本当に楽しかった」と先生への感謝の声が寄せられました。教室は今回で一区切りを迎えます。先生は「これからも、気が付いたときでいいから花に親しんでほしい。庭の花など身近な花に目を向け、季節の瞬間瞬間の美しさを見つけて」とメッセージをくださいました。



先生を囲んで笑顔の集合写真